

## 好評「渥美半島講座・現地研修」で終了

「半島の構造と植生から探る豊橋から渥美半島」講座が終了しました。5月から始まったこの講座、毎回たくさんの受講者に、「渥美半島などこの地域の誕生の不思議」「植物がその大地の上で育っている状況」を平川・中西、両講師のリレーにより説明をしてきました。最初の5回は講座に申し込まれた全員に参加していただき、最後の6回目だけはバスの利用もあり抽選で当選した方にご参加いただきました。抽選に漏れたみなさん本当に申し訳ありませんでした。でも、バス研修はとても気を揉めました。なぜなら、例年よりも早めに梅雨入りした今年、天気予報を見ている、当日の天気はなかなか読めず、晴れてよかったと安堵の6/16の朝でした。でも晴れたこともあり日焼けした方もいらっしやったのでは？

バスに乗車すると、「今、縄文時代の海の中を走っています」「一つ前の間氷期にはこの



の辺り一面海底です」などの平川先生のアナウンスで学習の記憶を思い出し、そうするとあの山からの斜面は陸地だったのだろうかと思案を深めながら進んだのです。



目的地の黒河湿地では、シデコブシを中心に、この湿地の特殊性や植生の多様性について説明を受け、どうしてここに湿地が残っているのかなどに話題が広がります。ハッチョウトンボはかわいかったですね。伊良湖ではクリスタルポルテの前で偏形樹の形成について、そして遊歩道では津波により打上げられた巨岩の成分などの説明を受け、台風やたゆまぬ風の威力を、また過去の大地震による津波で打上げられた巨岩について説明を受け「そうだったのか～」とため息。恋路が浜では砂浜の環境に適合した

海浜植物「コウボウムギ」「ハマゴウ」などを観察し、厳しい環境下での植物の分布を確認。昼食後の静けさの後で赤羽根・一色の浜では砂浜に埋もれた巨岩が二つ前・三つ前の間氷期からの贈り物であることを確認し、緑が浜公園では、本来の干潟の働きと汐川干潟の現状を学び、今回の研修を終わりました。内容の濃い1か月でしたが、再度いただいた資料を見直すと、もっと私たちの足元「渥美半島」がわかると思います。皆さん6回、お疲れさまでした。

